新聞を活用した学びを、ともに考える

2026年度
NIE 公開授業

４年２組の授業公開と、各学年の実践紹介。
授業参観・校内見学・意見交換を通して、
新聞を活用した教育の可能性を考えます。

2026年 12月9日 [水]

13:00–15:50

13:00 受付開始 ／ 13:25 公開授業開始

会 場 **常葉大学教育学部附属橘小学校**

公開授業・意見交換会：講堂 ／ 控室：会議室

公開授業 OPEN CLASS

４年２組「総合」

13:25–14:10 ／ 講堂

当日のプログラム PROGRAM

13:00–13:20	**受付** 控室：会議室
13:25–14:10	**公開授業** ４年２組「総合」／ 講堂
14:10–14:30	**校内見学** 案内：副校長・教頭
14:30–15:45	**意見交換会** 会場：講堂 授業の概要・各学年の取り組み・グループ協議 指導講評：NIE推進協議会会長 安倍 徹 様

15:50 終了予定

常葉大学教育学部附属橘小学校

NIE 研究概要

2025年度・2026年度 ／ 研究主題とねらい

研究主題

未来を切り拓く「生きる力」を育む NIE

～新聞から社会を読み解き、
主体的・協働的に探究する子どもの育成～

研究の背景 BACKGROUND

情報化やグローバル化が進む社会では、子どもたちが **情報を見極め、自ら課題を見つけて解決する力** を身に付けることが求められています。

新聞は、社会の出来事や多様な課題に触れられる **「生きた教材」** です。一方、SNSなどの普及により、 新聞に触れる機会が減り、偽情報や情報に関するトラブルに 巻き込まれるリスクも高まっています。

本研究では、新聞を通して社会への関心を広げ、 **主体的・協働的に探究する態度**と、 **情報を安全に受け取り、活用する力**を育みます。

育てたい子どもの姿 GOALS

01 社会とつながる

自ら問いを見つける子

社会の動きに関心を持ち、記事から疑問や課題を見つけ、 自分から調べようとする。

02 対話で深める

仲間とともに探究する子

多様な考えに触れ、他者と協力しながら、 根拠をもとに考えを深める。

03 情報を見極める

安全に情報を活用する子

情報の信頼性を確かめ、受け取るときも発信するときも、 責任ある行動をとる。

大切にする視点 MEDIA LITERACY

「読者の安全」を支えるメディアリテラシー

情報をそのまま信じるのではなく、 **「根拠は何か」「別の見方はあるか」** を考え、信頼性を吟味します。 情報を安全に、正しく受け取る力を、 社会と関わるための土台として育てます。

- 根拠を確かめる
- 複数の情報を比べる
- 多様な見方を持つ

次のページでは、このねらいを実現する３つの実践と、 期待される成果を紹介します。

常葉大学教育学部附属橘小学校

NIE 研究概要

2025年度・2026年度 ／ 具体的な実践と期待される成果

３つの実践 PRACTICE

① 主体的・協働的な探究活動

切り抜き新聞・壁新聞： 社会課題の記事を集めて分析し、対話を通して 課題解決への提案をまとめます。 静岡新聞コンクールへの参加にもつなげます。

NIEタイム： 朝学習などにワークショップ型の活動を設け、 記事について短時間で話し合い、多様な見方に触れます。

記事を集める → 問いを持つ → 話し合う → 提案する

② 新聞の比較で社会の仕組み・安全・地域のよさを学ぶ

見出し・リード文の比較： 同じニュースでも新聞社によって伝え方が異なることに気付き、 情報を鵜呑みにせず吟味する力 （クリティカル・シンキング）を育てます。

地域の魅力を発見： 新聞を比べる楽しさを味わい、 それぞれの地域の特色やよさに目を向けます。

比べて読むことで、見方を広げ、情報を見極める

③ 情報の「発信者」としての安全モラル

新聞記者の工夫に学ぶ： 取材で裏付けをとる大切さを知り、自分たちの発信でも 「根拠は確かか」「他者を傷つけないか」を確認します。 責任ある情報活用の態度を育てます。

確かな根拠と、相手への配慮を持って伝える

期待される成果 EXPECTED OUTCOMES

育まれる力	期待する子どもの変容
主体性・協働性	社会への関心が高まり、自ら問いを立て、 仲間とともに追究する学習態度が育つ。
読解力・思考力 表現力	多角的な情報を読み取り、筋道を立てて考え、 自分の考えを伝える力が伸びる。
安全な情報活用力	情報の信頼性を判断し、トラブルを回避して、 安全に行動する実践力が身に付く。

新聞を読む学びから、社会を読み解く学びへ。
考え、対話し、責任を持って伝える力を育みます。